

三 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

また、賢人のもとにも、不覺なるものもありけり。

〔注1〕九条民部卿あきより顯頼のもとに、あるなま公達きんたち、年は高くて、〔注2〕近衛司このあづかきを心がけ給ひて、あるものして、「よきさまに奏

し給へ」など、いひ入れ給へるを、主うち聞きて、「年は高く、今はあるらむ。なんでふ、近衛司、望まるるやらむ。出家うちして、かたかたに居給ひたれかし」と、うちつぶやきながら、「細かに承りぬ。ついではべるに、奏

しはべるべし。このほど、いたはることありてなむ、かくて聞きはべる。いと便なくはべり、と聞こえよ」とあるを、この侍、さし出づるまゝに、〔注3〕「申せと候ふ。年高くなり給ひぬらむ。なんでふ、近衛司、望み給ふ。かたか

たに出家うちして、居給ひたれかし。さりながら、細かに承りぬ。ついではべるに奏すべし、と候ふ」といふ。

〔注4〕この人、「しかしかさまはべり。思ひ知らぬにはなけれども、前世ぜんぜの宿執しゆくしふにや、このことさがたく心にかかり

はべれば、本意遂げてのちは、やがて出家して、籠こもりはべるべきなり。〔注5〕隔へてなく仰せ給ふ、いとど本意にはべり」とあるを、そのままにまた聞こゆ。主、手をはたとうち、「いかに

〔注6〕つるぞ」といへば、「しかしか、仰せのまゝになむ」といふに、〔注7〕すべていふばかりなし。

〔注8〕この使つかひにて、「いかなる国王、大臣の御事をも、内々おろかなる心の及ぶところ、さこそうち申すことなれ。それを、この不覺人、ことごとくに申しはべりける。あさましと聞こゆるもおろかにはべり。すみやかに参りて、

〔注9〕御所望のこと申して聞かせ奉らむ」とて、そののち、少将しょうしょうになり給ひにけり。まことに、いはれけるやうに、出家していまそかりける。

古人いへることあり。「人を使ふことは、工たくみの木を用ふるがごとし」といへり。「かれはこのことに堪へたり。これはこのことによし」と見はからひて、その得失とくしつを知りて使ふなり。しかれば、民部卿、〔注9〕「えせたくみ」にておはしけるやらむ。申次まうじぎすべくもなかりける侍なりしか。

〔十訓抄〕による

(注) 1 九条民部卿顯頼——藤原顯頼。公卿として白河・鳥羽院のもとで力をふるった。

2 近衛司——近衛府の役人。

3 いたはること——病氣。

4 しかしかさまはべり——その通りでございます。

5 少将——近衛少将。

問

(A)——線部(1)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 出家でもして、ひっそり生活すればいいものを
- 2 出家しているのだから、縁組は諦めてほしい
- 3 出家することで、せめてそばで仕えられないか
- 4 出家した後は、別々に暮らしてもらいたい
- 5 出家しても、互いに助け合うべきだ

(B)——線部(2)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 民部卿からの書簡を差し出しつつ
- 2 民部卿が発言した通りに
- 3 民部卿から指示されたので
- 4 なま公達の前に出るとすぐに
- 5 他の侍を押しつけながら

(C)——線部(3)について、「このこと」が示す内容として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 直接話をする事
- 2 折を見て奏上すること
- 3 出家すること
- 4 近衛司を婿にすること
- 5 近衛司になること

(D) — 線部(4)の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(E) — 線部(5)の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 可能 | 2 | 意志 | 3 | 命令 | 4 | 断定 | 5 | 推量 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

(F) — 線部(6)について。なま公達の心情の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 直接声をかけてもらうことを切に望んでいる。
- 2 正直に言ってもらえてとても満足している。
- 3 すぐに伝えてもらえたことを大変喜んでいる。
- 4 分け隔てなく接してもらうことを何よりも願っている。
- 5 身分に関係なく対応してもらえて非常に感謝している。

(G) 空欄 にはどのような言葉を補ったらよいか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|-----|
| 1 | おはし | 2 | 思し | 3 | 奏し | 4 | 候ひ | 5 | 聞こえ |
|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|-----|

(H) — 線部(7)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 全て報告しようとはしない
- 2 やはり直接応対するしかない
- 3 全部を打ち明けるしかない
- 4 もはやどうしようもない
- 5 まったく言葉もない

(I) — 線部(8)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- | | | | |
|---|---------------------|---|-------------------|
| 1 | お耳に入れてしまったことは私の過ちです | 2 | 申し上げてとても言い足りません |
| 3 | 申し上げるのも馬鹿らしいことです | 4 | おっしゃったところで無益なことです |
| 5 | 申し上げて仕方がないことです | | |

(J) ——— 線部(9)について。民部卿が「えせたくみ」だと考えられる理由について、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 取り次ぎの能力に欠ける侍を使ってしまったから。
- 2 なま公達の才能にすぐ気付けなかったから。
- 3 近衛司にその気がないことを知らなかったから。
- 4 目上の人物にしか本当のことを言えなかったから。
- 5 なま公達が結局出家してしまったから。

(K) ——— 線部(a)～(c)について。それぞれ誰を指すか、次のうちから一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- | | | | | |
|-------|--------|-------|-----|------|
| 1 民部卿 | 2 なま公達 | 3 近衛司 | 4 侍 | 5 古人 |
|-------|--------|-------|-----|------|

(L) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ なま公達は民部卿に出世の口利きを頼んだ。
- ロ 民部卿は病気のせいにして直接対応しなかった。
- ハ なま公達はどんなに偉い人物でも失言はあるものだと言った。
- ニ なま公達は出家した後で亡くなってしまった。
- ホ 侍が機転を利かせたことでかえって事態が悪化した。